

亜細亜大学同窓会

新青々会報

Seisei

VOL. 01

2026年8月発行

リニューアル版

「プレーの表も裏も、僕は野球を大学時代に学んだ」



Contents

リニューアル特別企画
青々会報の歩み

活躍する同窓生
青々たる人 #01

NHK 高校野球解説者
飯塚智広氏

新連載 駒村多恵が聴く！
新時代の先駆者たれ

ゴールドウイン代表取締役社長CEO
渡辺貴生氏

ほか



飯塚智広



本誌リニューアルに伴い、旬な輝きを放つ同窓生へのインタビュー新企画をスタート。トップバッターは、シドニー五輪の日本代表、社会人野球の都市対抗野球ではNTT東日本を監督として優勝に導いた飯塚智広氏。

(文中敬称略／聞き手・文〓志賀雅二 青々会常任幹事)

亜大入学最初のシーズンは4位
その後の入れ替え戦の経験がのちに……

「(学生時代のことで) すぐに思い出すのは、入れ替え戦に負けた時のこと」――。1994(平成6)年、飯塚は亜大入学直後の東都大学野球春季リーグで4位、秋には最下位となり、入れ替え戦に敗れて2部降格を経験した。入れ替え戦までの準備期間中は、OBたちが連日グラウンドを訪れ、指導や激励を続けてくれた。その姿に、伝統校の重みを感じたという。

「あの入れ替え戦を経験していなかったら、私たちの代は優勝争いをするようなチームにはなっていなかったんじゃないかと思います」。

苦しい経験があったからこそ、大学3年秋、4年春のリーグ優勝につながった。当時の亜大野球部には、「強いチームではなく、良いチームを作ろう」という合言葉があった。スター選

「私は野球を大学時代に教わった。代が変わっても安定している、それが亜大の強み」

手頼みではなく、先輩から後輩へ受け継がれる伝統や積み重ねを大切にする。その姿勢こそが、長く安定した強さにつながっていた。

「野球は確実に大学時代に教わりました。ランナーのリードにはこんな意味があるとか、プレーの細かな部分まで教わった。先輩から教わり、それをまた後輩へ伝えていく。それが亜大の強み、伝統だと思います」。

卒業後は社会人野球で活躍し、五輪にも出場
現在、高校野球解説者として注目

大学卒業後は社会人野球のNTT東日本で活

躍。2000年シドニー五輪には野球日本代表として出場し、2017(平成29)年には都市対抗野球でNTT東日本を監督として優勝へ導いた。

そして2025(令和7)年8月23日、夏の高校野球決勝、沖縄尚学高対日大三高戦――。甲子園球場の放送席に飯塚の姿があった。2022(令和4)年夏に解説者となって4年目。異例の早さで決勝戦の解説を担当するまでになっていた。自身もかつて甲子園を目指した球児であり、大学・社会人野球での経験に加え、監督や親としての視点も重なった飯塚の解説は、「愛があふれている」「わかりやすい」と視聴者の心を掴んだ。

飯塚は、甲子園に出場する球児たちへの強いリスペクトを口にする。「マウンドに立つ高校生の姿は、スタンドから見てもグッとくるものがあります。結果は出てしまいうけれど、そこまでやり抜いたこと自体が、本当に素晴らしい」。

さらに飯塚は、「失敗を恐れず、勇気をもってチャレンジしてほしい」と高校球児たちにエールを送る。甲子園は一発勝負の舞台だが、「ミスをしたくない」と言えない。失敗した経験のほうが後につながる」と強調する。

「私は高校時代、決勝戦で負けて甲子園には縁がありませんでした。でも、一生懸命頑張っていたら、解説者というご縁をいただけた。今の

my item



大学時代から愛用しているグローブ。現在も、小中学生向けの野球教室などで指導する際、使用している



「アジア青々会ネット」に
インタビューの完全版掲載中!

青々会報の歩み

昭和31年4月1日創刊！
青々会会報 第1号

当時の記事を振り返る

1956（昭和31）年4月1日、『青々会々報』第1号が発行された。

一面トップを飾ったのは、亜細亜大学長・青々会会長（いづれも当時）の太田耕造先生による「亜細亜大学とその夢」。本学の建学精神である自助協力に触れ、その精神が自由アジアの建設という大願に生命を吹き込み、日本の再建、ひいてはアジアの新たな胎動へとつながるものであることが力強く語られている。

また一面には、名誉教授・青木晋氏による「青々」の名称に関する解説や、発行人で



青々会々報第1号のコピー

あり当時の青々会副会長であった遠藤邦男氏による「会報発刊にあたって」も掲載された。

遠藤氏はそのなかで、会報の発行が「長い同窓生の夢であった」と振り返り、次のように記している。

「会報を出そう」といわれ始めてからもう何年になるだろうか。たしか興亜専門学校（第一、二回の卒業生の出た頃と記憶している。その後太平洋戦争、つづいて戦後の混乱等と事実上、卒業生の殆どすべては連絡すらつかない状態であった。それでも何人かの卒業生があつまると必ず「会報を出そう」という話が出たそうである。」

さらに遠藤氏は、会報発刊の意義について、戦中・戦後の混乱によって希薄となった同窓生同士のつながりを取り戻し、会員一人ひとりの近況や思いを共有することにあると述べている。さらに続けて「この会報が幾山河越えて同窓の家族に配達され、同窓を結ぶ精神的紐帯となってくれば、これに超した喜びはない」との言葉で、会報に託した願いを表現した。

二面以降には、前年に逝去した興亜専門学校初代校長・青々会名誉会長の菊池武夫先

生の追悼特集をはじめ、本学の生い立ちや青々会の支部結成に関する記事などが掲載されている。

支部関連の記事によると、県支部では岡山県同窓会が最も古い歴史をもち、宮崎県や東京でも会合が開かれていたという。また、1954（昭和29）年5月15日には愛知県水産会館で20名の同窓により中部青々会が結成されたほか、北海道でも支部結成に向けた動きが進められていた。



中部青々会（結成当日）



菊池名誉会長を招いて行われた宮崎県での会合

青々会に込められた思いと活動の歩みは、創刊から70年を迎えようとする現在にも受け継がれている。

バックナンバーは事務局で大切に保管

～閲覧希望の方は問い合わせを～



青々会報のバックナンバーなど貴重な資料を保管

期待を背負って創刊された『青々会会報』だが、第2号の発行は1964（昭和39）年2月8日と、実に7年後のことであった。復刊に際しては、多くの関係者や企業から名刺広告が寄せられ、その喜びと期待の大きさがうかがえる。

以降は年2回（2022（令和4）年より年1回）発行され、毎号、同窓生の近況や母校の話題など、読み応えのある記事が数多く届けられた。

青々会報のバックナンバーは、青々会の歩みを伝える貴重な記録として、現在も事務局で大切にファイリング・保管されている。

新青々会報誕生！ タブロイド版から冊子タイプへ リニユーアルにかける想いを語る

ました。

会則第5条の事業項目にあるように、卒業生への情報伝達手段である『青々会報』は、時代の変化を受け、A4判の手軽な形となりました。ウェブサイトと併せて活用いただければ幸いです。



青々会報の制作に長年携わっている志賀雅二青々会常任幹事

新しい酒を 新しい革袋に

永綱 憲悟
NAGATSUNA Kengo

亜細亜大学学長



青々会会報がリニユーアルされると伺いました。「新しい酒は新しい革袋に」と申しますが、酒（すなわち青々会の活動）が色々な意味で刷新され、それに応じて革袋（すなわち会の情報誌）も新しくなるものと解釈しております。

一方学園は、今年85周年を迎えます。その節目に健康スポーツ科学部の開設が成就したことをまずは皆様と共に大いに喜びたいと存じます。その新学部を入れる革袋の一つとして、実験実習棟を建てることとなり、来春の竣工を目指して、現在工事が進んでおります。

この関連で、大学中央に建立されていた太田耕造先生の胸像も場所を移動することとなりました。現在は学園史展示室に仮移設されており、いずれ学内の、学生たちの日々の活動が（太田先生から）眺められ

青々会会長の安藝でございます。

新しい青々会報の発行にあたりご挨拶をさせていただきます。

会員の皆様方には平素より青々会活動にご理解ご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

昨今の社会環境や国際情勢は目まぐるしく変化し、また人それぞれの価値観も大きく変化し多様化しております。

私はこの変化が速い時代だからこそ世代や立場を超えて支え合える「繋がり」の価値は、いっそう高まっていると感じます。

つまり青々会は亜細亜大学での学びや友情を原点とする信頼の輪を再認識し、広げ、次世代へとつなぐ場であればならないと考えております。

会員の皆様方の多くは在学中にゼミや学友会活動に参加され多くの仲間と青春を謳歌されたと思います。

新しい 「青々会報」 発行に寄せて

安藝 実
AKI Minoru

青々会会長



卒業をした今、大学時代の思い出や仲間との「絆」や「懐かしさ」に触れてみるのは如何でしょうか？青々会はまだにそのことを体现できる場所だと思っています。

私の具体的な組織運営方針として、今後も会員同士の交流機会を充実させるとともに、卒業年次・地域・職域を越えた「協力」「協調」を合言葉に活発に活動し、情熱をもって積極的な運営を進めてまいります。

同窓会組織は役員だけの運営で成り立つものではなく、会員皆様方、一人ひとりの参加が力となります。

どうか近況の共有や行事への参加、そして周囲への声掛けなど、できる形でのご協力をお願いいたします。

最後になりますが、今後の会員の皆様のご健勝とご活躍、そして母校と青々会のさらなる発展を祈念しご挨拶とさせていただきます。

MESSAGE



神奈川県連合会

支部：横浜(主管)・川崎・神奈川／連合会長：笠松隆司／出席：55名／2025(R7).8.2(土) アロハテール コレットマーレみなとみらい(横浜市)



千葉県連合会

支部：東葛(主管)・千葉／連合会長：伊藤三郎／出席：18名／2025(R7).9.28(日) 山崎製パン企業年金基金会館(千葉市)



東京連合会

支部：城北(主管)・城南・城東・城西・中央・武三小・東多摩・南多摩・西多摩・北多摩・フューチャーズ／連合会長：志澤勲／出席：129名／2026(R8).5.23(土) 亜細亜大学5号館(武蔵野市)



近畿連合会

支部：和歌山県(主管)・兵庫県・京滋・大阪・奈良県(欠席)／連合会長：吉本美代子／出席：16名／2025(R7).4.19(土) しまもと(和歌山市)



北陸連合会

支部：富山県(主管)・石川県／連合会長：久保健三／出席：19名／2025(R7).11.22(土)／富山エクセルホテル東急 レストラン「リコモモンテ」(富山市)



東海連合会

支部：三重県(主管)・愛知県・静岡県・岐阜県／連合会長：鈴木雅教／出席：14名／2025(R7).7.12(土) 都ホテル(四日市市)



九州連合会

支部：宮崎県(主管)・鹿児島県・沖縄県・熊本県・佐賀県・大分県／連合会長：岡田正裕(欠席)／出席：26名／2025(R7).9.27(土) エアラインホテル(宮崎市)



四国連合会

支部：愛媛県・香川県・徳島県・高知県／連合会長：大塚伸弥／出席：14名／2025(R7).9.13(土) リジェール松山(松山市)



中国連合会

支部：岡山県(主管)・広島県・山口県・島根県・鳥取県／連合会長：下山勲／出席：21名／2026(R8).5.23(土) ビュアリティ まきび(岡山市)



次回開催予定

「ビジネスネットワークの集い」日時：2026(R8)年9月16日(水)18時30分～／場所：渋谷エクセルホテル東急 ※詳細は、8月上旬に青々会のWEBサイトに掲出



次回開催予定

「ホームカミング・デイ」日時：2026(R8)年11月3日(火・祝)16時～／場所：武蔵野キャンパス ASIA PLASA 4階 ※詳細は、10月上旬に青々会のWEBサイトに掲出

ホームカミング・デイに450人
ビジネスネットワークに76人
卒業生が旧交を温める「ホームカミング・デイ」が2025(令和7)年11月3日(祝)にASIA PLAZAにて、仕事に役立つ縁を繋ぐ「ビジネスネットワークの集い」が8月29日(金)に渋谷エクセルホテル東急にて、それぞれ開催されました。

活動報告



今後の主な予定

2026(R8)年11月3日(火・祝)

幹事会

時間 | 11時～

場所 | 太田耕造記念館 青々会会議室

協議員会

時間 | 12時20分～

場所 | 武蔵野キャンパス 5号館(予定)

連合会長・支部長会議

時間 | 13時30分～

場所 | 武蔵野キャンパス 5号館(予定)

興亜神社例祭

時間 | 15時～ 場所 | 興亜神社

ホームカミング・デイ

時間 | 16時～

場所 | 武蔵野キャンパス ASIA PLASA 4階

※会費 1人 2,000円(入場受付時に)

2027(R9)年6月

総会

場所 | 武蔵野キャンパス

※詳細は、2027(令和9)年春に青々会のWEBサイトに掲出

※各イベントの詳細ならびに各支部総会等の開催日程は、青々会のWEBサイトに随時掲出します

News and Updates

2026(令和8)年度

活動報告

お知らせ

と



活動に関する問い合わせ先

青々会事務局

TEL | 0422-51-1600

MAIL | seiseikai@asia-u.ac.jp



青々会HP



東北連合会

支部：宮城県(主管)・岩手県・秋田県・福島県・山形県・青森県／連合会長：工藤篤／出席：24名／2025(R7).10.11(土) ホテルJALシティ仙台(仙台市)



北海道連合会

支部：帯広(主管)・札幌・函館・北見・旭川・釧根／連合会長：大西勝／出席：16名／2025(R7).10.4(土) ホテルグランテラス帯広(帯広市)

※各支部総会の開催報告は青々会WEBサイトに随時掲出予定

連合会



埼玉県連合会

支部：埼玉県央(主管)・埼玉県東・埼玉県西／連合会長：高橋光昭／出席：39名／2026(R8).6.7(日)和太鼓スタジオすわんど(さいたま市)



北関東連合会

支部：群馬県(主管)・栃木県・茨城県／連合会長：五月女弘／出席：20名／2025(R7).6.28(土) 徳樹庵 前橋店(前橋市)



甲信越連合会

支部：新潟県(主管)・長野県・山梨県／連合会長：大橋博文／出席：20名／2025(R7).10.25(土) ホテルニューオータニ長岡(長岡市)

「新春の集い」に131人参加

2026（令和8）年「新春の集い」が、同年1月30日（金）に吉祥寺エクセルホテル東急で開催されました。長年会場としていた東急REEホテルの改修工事に伴い、初めて会場を変更。巴政雄理事長も初参加し、卒業生73人、来賓25人、実行委員11人、学生22人の計131人が集いました。

新年の挨拶や懇談が和やかに行われ、応援指導部チアリーダーによる第一学生歌で締めくくられました。



次回開催予定

「新春の集い」
日時 | 2027(R9)年1月下旬 ※詳細は、11月中旬に青々会のWEBサイトに掲出

デフリン・サッカー銀メダ
林滉大選手に『青々会賞』

2025（令和7）年11月に開催された「東京2025デフリンピック」サッカー競技で活躍した卒業生の林滉大選手（平成30年度経済学部

新事務局長に宇田川裕氏

田中芳晴青々会事務局長の任期満了退任に伴う新事務局長として、2025年3月末に職員を定年退職した宇田川裕氏が、同年7月1日付で着任しました。



宇田川裕
うだがわ・ゆたか
昭和57年度経済学部卒

2つの新支部誕生

20代から40代までの若手同窓生による「青々会フューチャーズ支部」と、外務省の在外公館派遣員を経験した卒業生による「外務省在外公館派遣員支部」が、いずれも幹事会で審議・承認されました。前者は2025年5月24日（土）に都内で、後者は2026年6月1日（月）に亜大で、第1回総会が開催され、赤保谷剛史（あかぼや・つよし 平成26年度卒）氏、西田弘次（にしだ・こうじ 平成元年度経済学部卒）が、それぞれ初代支部長に選任されました。

卒」と、現役（当時）の瀧澤諒斗選手（令和7年度法学部卒）の報告会が、同年12月9日に学内で行われました。全試合に先発出場し、予選リーグで3得点、決勝でもゴールを決めた林選手は、「応援ありがとうございました。金メダルを目指して戦いましたが、決勝でトルコに敗れました。2年後のワールドカップでは優勝できよう頑張ります」と謝辞を述べました。また、報告会終了後、林選手へ「青々会賞」が贈られました。



青々会賞を宇田川事務局長（写真左）から授与される林選手（写真右）

母校短信



古木となった桜の木を伐採

体育館前の桜の木が老木化に伴う安全面への配慮から、2025年10

月に伐採・伐根されました。入学式の季節やFOC（現「出会いの広場」）では訪れる学生たちを見守るように咲いていた桜でしたが、その姿を消すこととなりました。

この場所は新設された健康スポーツ科学部の教室棟などの建設予定地となっています。伐採された桜の木は「桜の箸」として生まれ変わり、設備整備のための「教育研究振興資金」の返礼品として、寄付をくださった皆様に贈られる予定です。



体育館前に咲いていた桜の木。隣に設置されていた太田耕造先生の胸像は現在、学園史展示室に仮移設されている

5学部合計1335人が卒業
1381人が青々会の新会員に

令和7年度の卒業式が、3月15日（日）に3号館講堂で行われました。コロナ禍で実施されていた2部構成から、昨年度に続き一括での開催と

なりました。卒業生は5学部合計1335人、大学院修了者46人、留学生別科卒業生17人で、学部・大学院合わせて1381人が青々会の新会員となりました。

令和8年度出願者数・入学者数
出願者は6学部で1万人を突破

	学科／研究科	出願者(人)	入学者(人)
経営学部	経営	2,627	386
	ホスピタリティー・マネジメント	745	153
	データサイエンス	348	78
経済学部	経済	1,946	303
法学部	法律	2,050	411
国際関係学部	国際関係	939	156
	多文化コミュニケーション	933	156
社会学部	現代社会	1,019	161
健康スポーツ科学部	健康スポーツ科学	759	120
大学院	アジア・国際経営戦略研究科	37	7
	経済学研究科	5	2
	法学研究科	10	7
合 計		11,418	1,940

※留学生別科……出願者37人、入学者16人

令和8年3月31日現在

計報 【 】内は卒業年度、（ ）内は逝去年月日。Sは昭和、Hは平成、Rは令和。敬称略。

【S16年度】布田弘 【S20年度】伊藤公雄（R5年1月）、中村友信（H21年11月） 【S21年度】河西善雄（R6年11月） 【S23年度】富塚慎二（H28年12月31日） 【S24年度】笹路正明、三浦博義 【S25年度】小俣金次（R3年7月15日） 【S26年度】小林弘敬（R6年12月28日） 【S29年度】田村昭夫、松元諭（R2年8月5日） 【S34年度】井村勝彦（R6年10月16日）、川合貞義（R7年7月18日）、川村浩（R7年5月21日） 【S35年度】曾輪禎造（R7年9月5日）、板本脩（R7年7月16日）、寺井時夫（R7年1月1日）、村崎知雄（R6年12月27日） 【S36年度】岡本鎮（R7年6月5日）、西本順一（R5年11月22日） 【S37年度】小谷純平（R5年9月）、久松淳宏（R6年12月24日）、町田英司（R6年12月1日）、松浦浩（R7年12月12日） 【S38年度】木原清昭（R7年11月30日）、砂永孝（R7年2月）、林敬二（R6年7月） 【S39年度】岩崎恒夫（R7年9月17日）、小野昭和（R7年6月12日）、佐藤雄市（R4年）、平能裕志（R6年10月）、松井昇（R6年8月）、宮田勇二（R8年2月）、河村信正 【S40年度】阿由葉治男、川野昭喜、海老塚忠明（R4年8月）、田村元（R6年7月15日）、丹原正彦（R7年6月30日）、成田繁（R7年5月21日）、米山順（R5年）、渡辺靖（R6年5月22日） 【S41年度】唐戸幸一（R6年12月）、菊崎弘子（R6年11月） 【S42年度】伊達誠之（R7年5月25日）、戸井吾郎（R7年6月3日） 【S43年度】阿部昌季（R6年10月22日）、南畝昭宏、井上正文（R7年7月11日）、黒沢博史（H25年4月14日）、山下英俊（R7年8月）、山下莊平 【S44年度】西脇周平（R3年2月）、藤森啓子（R7年4月）、本多利行（R7年8月）、宇佐美正雄（R7年8月1日）、北島幹哉（R8年3月28日）、勾坂祐一（R2年）、澤田和典（R5年5月）、高杉仁（R7年5月22日）、濱川隆司（R7年3月3日）、三好嘉治（H21年10月16日）、鎌田隆良（R5年12月29日）、佐々木崇（R4年）、大戸千秋（R4年4月11日）、南畝美恵子、前側洋美（R6年12月4日） 【S45年度】神谷陽（R6年9月）、藤井哲雄（R3年4月15日）、石川清（R6年2月）、工藤覚（R5年9月）、小林廣一（R7年4月20日）、河野光成（R7年1月）、水口順路（R4年5月）、中島吉信 【S46年度】川崎康文（R7年5月29日）、小倉俊治（R7年1月11日）、小布施格（R7年8月9日）、小城康弘（R6年）、金安重行（R6年12月）、金子勇（R7年10月31日） 【S47年度】藤田英治（R7年7月25日）、牧田健次郎、尾形春男（R7年5月5日）、岩見信男（R6年11月）、畑務（R6年9月）、渡辺秀（R4年7月27日）、風間茂（R7年1月10日）、関口彰一（R7年12月23日）、野呂覚雄（R5年8月10日）、兵頭香津（R5年9月） 【S48年度】原清美（H24年）、植木正、大島競一、塩川博輝（R5年）、浅原英一（R7年10月2日）、山崎進、南誠一（R6年12月）、前原恵美、斉藤照夫（R7年9月22日）、寺島健一（R7年2月25日）、大越京子（R元年） 【S49年度】石井剛（R6年）、近藤雅雄、佐藤澄夫（R6年）、高木光治（R4年10月）、平吹謙一（R7年11月14）、伊藤昇（R6年5月26日）、小林常男（R6年7月22日）、大屋祥子（R6年7月） 【S50年度】水野則夫（R3年7月）、堀沢英治（R7年1月）、島田秀光（R8年4月）、野本恵一（R3年10月）、宇敷貴（R7年5月）、岡本嘉夫、田村智彦（R7年11月20日）、舞澤貞夫、金子恵子（R7年4月） 【S51年度】佐々木直樹（R5年9月）、伊勢仁（R7年4月30日）、勝田英夫（R3年）、清水治（R5年12月）、南雲晴之（R7年10月31日）、岩本寿一（R6年9月） 【S52年度】澤田實（R7年4月15日）、片山康彦（R7年1月） 【S53年度】山手和司（R2年12月7日）、久保聡（R3年8月）、矢澤裕之（R7年1月16日） 【S54年度】小林猛夫（R7年5月18日）、阿部功、太田宇（R7年5月13日） 【S55年度】芝田英二（R7年3月）、山下雅英（R4年1月）、吉田好仁（R7年6月3日）、五十嵐敏夫（R4年6月）、若月利江（R7年2月） 【S56年度】小出幸司、鶴岡昌利（R7年7月24日）、大久保信夫（R7年4月8日） 【S57年度】小山田丈（R7年）、松本起嘉（R6年11月）、相原久美子（R7年）、今泉範章（R2年） 【S58年度】永田俊介（R6年）、大城英夫（R5年）、北條道彦（R7年4月15日）、水沼孝成（R7年7月20日） 【S59年度】鵜野慎吾（R7年9月22日）、山影美智男（R5年12月25日） 【S60年度】成田哲（R7年4月14日）、木村充（R6年5月15日） 【S61年度】丸山浩（R7年6月16日） 【S63年度】浮田安秀、濱田寛一（R7年10月23日） 【H元年度】井上真一朗（R元年7月19日）、新野和人（R6年） 【H2年度】青木聡子（R7年）、武山裕二 【H3年度】林義幸（R7年9月19日） 【H4年度】須藤信太郎（R4年）、保坂正志（R8年2月1日） 【H6年度】加藤みどり（R3年5月2日） 【H8年度】吉岡裕（R7年）、石川優子（R6年3月）、林泰嘉（H26年10月5日） 【H10年度】磯野洋亮（R6年2月12日） 【H11年度】柿崎高人 【H23年度】野瀬友美子（R6年1月23日） 【H28年度】小森隆寛（R5年9月25日） 【R6年度】笠野大志（R7年12月）

2026（令和8）年4月までにご連絡のあった方々です。
ここに追悼の意を表し謹んでご冥福をお祈りいたします。

駒村多恵 | こまむら・たえ

1975(昭和50)年大阪府生まれ、奈良県育ち。アイドル歌手としてデビューし、1997(平成9)年亜細亜大学国際関係学部卒業後キャスターへ転向。現在は主にNHK『あさイチ』のサブキャスターとして親しまれる。実母の長年の介護経験から、介護福祉士、介護食士の資格を取得し、講演会やコラム連載などでも活躍。ちなみにAUAPはCWU。



第1回

渡辺 貴生

株式会社ゴールドウイン
代表取締役社長CEO

新時代の先駆者たれ

— トップリーダーからのメッセージ —

憧れのブランドと歩んだ40年

— まずは、ゴールドウインについて教えてください。

渡辺 当社は「スポーツを通じて社会を豊かにしたい」という創業者の思いからスタートした会社です。1960年代、東京オリンピックでのユニフォーム提供を契機にスポーツウェア事業へ転向し、70年代以降は「フザルプ」や「ヘリーハセン」など海外ブランドを日本で展開してきました。2020年に私が社長に就任してからは、自社ブランドのグローバル展開にも力を入れています。

— 大学卒業後、なぜゴールドウインに入社を決めたのですか？

渡辺 きっかけは、高校生の頃に雑誌で見た「ザ・ノース・フェイス」でした。

当時は手が届かない憧れのブランドでした。大学生になり、就職活動で自分の好きなことを考えたとき、スポーツやファッションに関わる仕事がしたいと思い、調べてみると、大好きな「ザ・ノース・フェイス」を日本で展開しているのがゴールドウインでした。もともと「ヴァンチャケット」が展開していましたが、倒産して事業がゴールドウインに引き継がれていたのです。それが入社を決め手でした。

「特別」から「日常」へ
アウトドアをライフスタイル化する

— ブランドを育てるうえで大切にしてきたことはありますか？

渡辺 お客様の心の中にある「これを着て出かけたい」「生活に取り入れたい」というイメージを作ることです。かつてアウトドアウェアは登山者向けの特別な

TAKAO WATANABE

1960(昭和35)年千葉県出身。1982(昭和57)年亜細亜大学法学部法律学科卒業後ゴールドウインに入社。40年近く、「ザ・ノース・フェイス」(THE NORTH FACE)の事業に携わる。同ブランドの事業部長、副社長を経て2020(令和2)年4月に代表取締役社長執行役員に就任。2025(令和7)年6月から現職。

ものでしたが、私は、優れた機能をもつと日常生活で活かせるのではないかと考えました。そこで黒やネイビーなど普段着としても取り入れやすい色を展開し、アウトドアウェアのライフスタイル化を進めていきました。機能を日常化し、ファンを増やすことがブランドを育てることだと思っています。

— 日頃、大切にしていることは？

渡辺 仕事と遊びに境界線を引かないことです。私はフライフィッシングや登山、ヨットが好きですが、人を楽しませる商品を作るには、まず自分自身が遊びを知る必要があります。ウェアやバッグ、店舗の内装や空間設計などを広く手掛けてきましたが、遊びや体験の中で磨かれた感覚こそが、私のものづくりの原点です。

— 企業として大切にしている価値観を

教えてください。

渡辺 私たちは、ものづくりの会社であることを忘れてはいけません。当社の創業者から学んだのは、「目に見えないところにこそ大切なものがある」という考え方です。また、自然環境は私たちの事業の基盤です。だからこそ環境に配慮した素材開発や取り組みを90年代から続けてきました。これからも、未来につなげるものづくりを実践していきます。

亜細亜大学で培った学びと
後輩へのメッセージ

— そもそもなぜ亜細亜大学へ？

渡辺 当時亜細亜大学に通っていた兄の勧めがあったからです。司法書士だった父の仕事を継ぐと、法学部法律学科に進学しました。高校まではあまり勉強していませんでしたが、大学では法律を真剣に学びました。その後、父から「兄が継ぐから、お前は好きなことをやれ」と言われて今の道へ進みましたが、あのとき身につけた論理的な思考力は今の仕事にも活きています。また、亜細亜大学には当時から多くの留学生がいて、多様な価値観に触れられる環境がありました。振り返ると、もっと積極的に交流しておけば良かったと思います。

— 後輩たちに伝えたいことは？

渡辺 世界は広く、人生は短い。だからこそ、好奇心を持ってさまざまなことに挑

戦してほしいですね。そのためには謙虚さも欠かせません。AIなどによって社会が大きく変化していくなかでも、人と向き合い、学び続ける姿勢という普遍的な価値は変わりません。好奇心と謙虚さを両立させることが大切だと私は思います。

新しい価値観と出会う
きっかけをつくりたい

— 最後に、今後の挑戦について教えてください。

渡辺 昨年、グループ会社として旅行会社を迎えました。世界の山々や大自然への旅を専門とする会社で、現在、カナダの先住民の暮らしや価値観に触れたり、雄大な自然を体感したりできる新しいツアーの企画を進めています。実際に

広い世界へ出て自然の中に身を置き、異なる価値観を持つ人々と出会うことで、人は多くを学ぶことができます。だからこそ、こうした体験を若い世代に届けたい。これからも、新しい景色や新しい価値観と出会うきっかけをつくり続けていきたいと思っています。

青春時代に憧れた「ザ・ノース・フェイス」との出会いをきっかけにゴールドウインへ入社し、ブランドとともに歩み続けてきた渡辺貴生氏。自然を愛し、自らものづくりにも携わり続ける、その原点と挑戦の軌跡を伺った。

この連載について

太田耕造初代学長が残した「新時代の先駆者たれ」という言葉の通り、亜細亜大学の建学精神「自助協力」を体現し、トップリーダーとして活躍する卒業生を紹介していきます。



「自助」とは、自身のアイデンティティを確立し、自らの力で道を切り拓くこと。自立した人間同士の関係こそが、真の「協力」関係である。

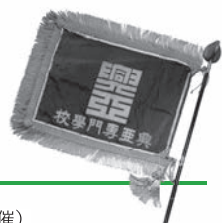


株式会社
ゴールドウイン
公式サイト



ザ・ノース・フェイス
ブランド公式サイト

沿革



昭和25年	青々会発足(第1回総会開催)、 会長に太田耕造学長
昭和31年	青々会報第1号発行
昭和33年	青々会事務局常設(事務局長は卒業生職員が担当)
昭和39年	青々会報第2号発行(以後年2回発行)、 青々会賞授与開始
昭和40年	青々会奨学金制度発足(翌年度から授与)
昭和41年	第1回興亜神社例大祭
昭和42年	青々会出版部発足
昭和50年	連合会7(北海道・関東・東海・近畿・中国・ 四国・九州)[支部 42]
昭和56年	太田耕造会長逝去(11月)
平成元年	会報がブラケット版からタブロイド版へ(53号)
平成2年	青々カード発行[協和(現りそな) クレジットサービスと提携]
平成3年	卒業生5万人を超える
平成6年	青々会館引渡しを受ける、事務局大学から独立
平成7年	財務関係引渡し終了、 会報「校友課だより」(通算66号)最終号
平成8年	青々会独自の運営体制
平成11年	大学と業務委託契約締結 (卒業生の住所等管理に関する業務)
平成13年	青々会ホームページ開設
平成24年	青々カード廃止、「青々会スポーツ活動支援 奨学金制度」の設立、母校の硬式野球部・ 陸上競技部から推薦の新入学選手計4名に4年間、 年60万円の奨学金を授与
平成24年	青々会報「創刊100号」発行
平成30年	卒業生10万人を超える
平成31年	ホームページリニューアル(外部委託)
令和元年	「ビジネスネットワークの集い」初開催(52名参加)
令和2年	新型コロナウイルス感染症の拡大による 緊急事態宣言発令を受け、 令和2年度青々会活動3月以降休止、 大学と業務委託契約締結(旧契約を改定)
令和8年	青々会報がタブロイド版から冊子ヘリリニューアル、 青々会WEBサイトリニューアル

青々会について

「青々会」は、亜細亜大学、亜細亜大学短期大学部、日本経済短期大学、日本経済専門学校、興亜専門学校など、学校法人亜細亜学園の卒業生・同窓生による組織です。

1950(昭和25)年秋、当時の第一校舎(現在の南門付近)で開催された初の同窓会総会において、「青々会」の名が定められました。

名の由来は、母校の前身である興亜専門学校の設立以前にさかのぼります。1939(昭和14)年5月、世田谷区豪徳寺近くの南里邸に53人の青年が集い、その学びの場を「青々寮」と名付け、寝食を共にする塾教育を始めました。

「青々」は、西郷南洲(隆盛)の「山は是れ青々、花は是れ紅なり」や、中国・宋代の詩人・謝枋得の詩にある「雪中の松柏愈々青々たり」に由来するもので、困難に直面しても松柏のように志を失わず、力強く歩み続けようという精神が込められています。名付け親は、当時の校長であった菊池武夫氏(男爵・貴族院議員、1875(明治8)～1955(昭和30)年)です。

そうした先人たちの思いを受け継ぎ、私たち卒業生・同窓生の集まりである「青々会」もまた、青々とした気概を胸に歩み続けています。

出典：『亜細亜学園50年史』、『青々会報』(昭和43年3月発行号)



学生らが自分たちの手で設計・建築した「日輪舎」(昭和15年3月15日落成、三鷹市)の前で

亜細亜大学同窓会 新青々会報 Sei Sei
VOL.01(青々会報より通算第122号)

随時、同窓会情報をお届けします！

発行日 | 2026(令和8)年8月1日
発行 | 亜細亜大学同窓会 青々会
住所 | 東京都武蔵野市境5-8
TEL | 0422-51-1600
FAX | 0422-51-0929
MAIL | seiseikai@asia-u.ac.jp
編集・制作 | 株式会社 文伸
デザイン | オフィスナイス株式会社
撮影 | 齊藤僚子

友だち追加
お願いします！

青々会LINE



青々会HP



アジア青々会ネット



※本冊子に掲載している情報は2026(令和8)年8月現在のものですが、2025(令和7)年度以前に撮影した写真等も含まれます。
※本冊子の著作権は亜細亜大学同窓会青々会に帰属します。
※記事・写真・イラストなどの掲載内容はインターネットを含め無断で複製・転載することを禁じます。

この印刷製品は、環境に配慮した資材と工場
GREEN PRINTING JFPI
P-D10010
で製造されています。

ミックス
紙 | 責任ある森林
管理を支えています
FSC
www.fsc.org
FSC® C178085